

国語科における「探究国語」の構想

国語科は、習得した知識等を活用し、文章事実に基づいた根拠のある理由を考えたり、自分の考えを筋道立てて整理・表現したりするとともに、場面や段落等に応じた多様な読み方・捉え方を見付けたり、新たな表現を生み出したりすることができることを目指しています。国語科では、それらを対象として、次の通り、目的に応じた多様な読み方・捉え方を見付けたり、新たな表現を生み出したりする「探究国語」を構想するとともに、より深い学びとなるようにしたいと考えています。

I 研究主題と関連させた「探究国語」の考え方

(1) 国語科が考える「探究国語」とは

国語科で習得した知識等を活用し、文章事実等に基づいた根拠のある理由を考えたり、自分の考えを筋道を立てて整理・表現したりするとともに、目的に応じた多様な読み方・捉え方を見付けたり、新たな表現を生み出したりする学習活動を行うこと。

(2) 探究国語における「考えを広げ、深める」とは

考えを「広げる」とは	「単元目標を達成し、超えるため、多様な考えを出し合い、探究の視点を増やす」 → <u>様々な視点で物事を捉え、新たな考え方を見付けること</u> ①登場人物の性格や感情、特徴などを <u>多面的に捉えたり</u> 、場面の様子、人物関係などを <u>様々な視点（主人公・別の登場人物・読者）から多角的に捉えたり</u> しながら、 <u>多様な読み方をすること</u> ができる【物語文】 ②文中のキーワードや構成の工夫、読者に訴えたい内容とその工夫など、 <u>様々な視点から</u> 、文章の内容を読み取ることができる【説明文】 ③既習をもとに、言葉や漢字の意味を推測したり、 <u>状況や場に応じて、多様な意味や読み方をしたり</u> することに気付くことができる【言葉】
考えを「深める」とは	「単元目標を達成し、超えるため、個々に広げた視点で知識と知識を関連させ、より概念として身に付けること」 → <u>広げた考え方（様々な視点で捉えたこと）をもとに、自分なりの解釈・表現をすること</u> ①登場人物の心情の変化や人物像を、場面の様子や人物関係、情景描写、前後の文脈等、 <u>多様な視点から総合的に考え方を導き出そう</u> とすることができる【物語文】 ②文章の構成、段落のつながりや順序、図表や写真の有無など、 <u>多様な工夫を取り入れながら</u> 、読み手に伝えたいことが伝わる、 <u>自分なりの説明文を作成</u> することができる【説明文】 ③言葉や漢字のもつ意味を <u>多面的に理解し</u> 、状況に応じて使い分けることができる【言葉】

(3) 探究国語における目指す児童像

児童の実態	【R7国の学力調査より】 ○ 全体的に正答率が高い。記述式問題では全国平均との差が令和6年度の+1.8から+13.5へと伸びていることから、問題を解くスキルに加え、論述したり説明したりするスキルが育ってきていると言える。 ▲ 話し合い活動の中で、根拠を示し論理立てで説明するのが苦手な児童が多い。回答が単語であったり、「なぜ」「どうしてそう思う」の問い合わせに対する答えに言葉がつまつたりする場面がある。 ▲ その場に応じた話型が適切でない傾向にある児童が見受けられる。 ▲ 仲間づくりに関して、日常生活における活用場面が少なく、役立っていると感じている児童の割合が少ない。
-------	---



【目指す児童像】	
○ 国語を正確に理解したり、適切に表現したりする力、および思考力や想像力、言語感覚を養うことを通して、自らの考えを論理的に深め、他者と伝え合う児童（令和6年度） →国語科で習得した知識等を活用し、文章事実等に基づいた根拠のある理由を考えたり、自分の考えを筋道を立てて整理・表現したりするとともに、場面や段落等に応じた新たな表現を生み出すことができる児童（令和7年度）	

社会科の「探究社会」の構想

社会科は、社会的事象の背景や構造、人々の営みや価値観に対する理解を深めるとともに、社会的な見方・考え方を確実に身に付けることを通して、地域や国、世界の課題に対して主体的に関わろうとする児童を育成することを目指す。探究社会では、実社会のしくみや事象に主体的に関わり、課題を見出しそれよりよい社会のあり方を自ら考え行動する力を育っていく。

I 研究主題と関連させた「探究社会」の考え方

(1) 社会科が考える「探究社会」とは

子どもたちが知識の習得にとどまらず、実社会のしくみや事象に主体的に関わり、課題を見出しそれよりよい社会のあり方を自ら考え行動する力を育てる学習活動。

(例) 自然災害から暮らしを守る

学びの問い合わせ: 「災害が起きたとき、私たちにできることは何だろう?」

活動内容: 過去の災害事例や地域の被害状況を資料や地図で調べる/市役所・社会福祉協議会など関係機関へのインタビュー/ハザードマップを活用し、地域の危険箇所や避難経路を確認する/自分の避難行動計画(マイ・タイムライン)を作成する

育まれる力: 情報収集力・社会参画力・発信力

(2) 探究社会における「考えを広げ、深める」とは

考えを「広げる」とは	自ら立てた問い合わせに対して、様々な他者の意見を聴くことで多様な視点からの発想や情報を得て、自分とは違う価値観や考え方から新たな着想が生まれることで、自らの思考の幅を広げること。
考えを「深める」とは	得られた情報や意見について、ただ「こうである」という事実だけでなく、その理由や背景などを探し、より深い本質的な理解を持ち、またそれと結びつけることによって、より説得力のある発信に繋げること。

(3) 探究社会における目指す児童像

児童の実態	○社会科に対して興味・関心をもち、意欲的に学習に取り組んでいる。 ○人々が困っている状況や地域の課題に対して「何か力になりたい」「よくしたい」という思いを持ち、社会と積極的に関わろうとする姿勢が見られる。 ▲児童によって経験や知識の個人差がある。 ▲社会のしくみや社会的な課題(例えば、自然災害や環境問題など)について学んではいるものの、その背景や原因などを深く考えることが難しく、表面的な理解にとどまってしまう傾向がある。
-------	---



【目指す児童像】

- 広い視野をもち、他者の考え方や社会的な視点を柔軟に取り入れながら、自分の考え方を発展させることができる児童。
- 社会的事象について、事実だけでなく背景・因果関係・価値などを踏まえて、説得力のある説明や提案ができる児童。
- 自分の思いや考え方を、資料や体験をもとに論理的かつ創造的に表現し、社会に働きかけようとする児童。

算数科における「探究算数」の構想

算数科は、「数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成することを目指しています。また、学習対象として、①日常の生活や社会事象と、②数学の事象の2つを想定しています。算数科では、その2つを対象として、次の通り「探究算数」を構想するとともに、より深い学びとなるようにしたいと考えています。

I 研究主題と関連させた「探究算数」の考え方

(1) 算数科が考える「探究算数」とは

算数科における探究の対象と探究学習は、以下の2つに分けられる。

①日常生活や社会の事象を対象とした探究	算数の学習を活用し、具体的な調査によって日常生活や実社会の問題を実際に解決するとともに、解決過程を振り返り、得られた結果の意味を考察したり、算数的なよさを実感したりする学習 (例)・時刻と時間の学習を活用し、社会科見学の計画を立てる学習活動 ・縮図の学習を活用し、校舎の実際の面積を求める学習活動 など
②数学の事象を対象とした探究	算数の学習を統合的・発展的に活用し、数学の事象を対象とした問題を、根拠に基づき筋道立てて考えたり、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したりして問題を解決し、解決過程を振り返り、概念を形成したり体系化したりする学習 (例)・3けたのたし算・ひき算の学習を活用し、虫食い算を解く ・マヤ数字の仕組みを理解し、2進法の問題を解く など

これら2つの探究学習を相互に関連させながら、探究算数を展開する。

(2) 探究算数における「考えを広げ、深める」とは

考えを「広げる」とは	パーソナルワーク(主に自力解決場面)において、既習の計算や公式、算数的なものの見方・考え方等を統合的・発展的に活用し(=広げ)、主体的・自立的に自己の考えを持つ。
考えを「深める」とは	グループワークやクラスワーク(主に学び合い場面)において、個々の考えの論理性や簡潔・明瞭性等について比較・検討し、よりよい解法に洗練することを通して、新しい考えを身に付けたり、よりよい問題解決過程を理解したりする。

(3) 探究算数における目指す児童像

児童の実態	<p>【R7 全国学力調査より】</p> <ul style="list-style-type: none">○ 平均正答率が全国平均より約20ポイント高い。数と計算で10ポイント、その他の領域でも20ポイント以上全国平均を上回り、短答式、記述式も同様でかつ全国平均を下回る問題項目はない。○ 算数の授業で学習したことは、将来役に立つと思うと答えた児童62.5%であった。▲ 調査問題のように、文章としての「テキスト」と、表や図、グラフなどの「非連続テキスト」の両者を相互に読解しながら解く問題の正答率が低い。無答も多い。▲ 式と答えは正答できるものの、その過程を説明する記述問題では、論理性が不十分なため、部分点しか得られないことが多い。無答も多い
-------	--



【目指す児童像】

- 日常の算数的な事象について論理的・統合的・発展的に考え、自分の考えを簡潔・明瞭・的確に表すことを通して、『最適な解答』を求め、主体的に対話的に粘り強く考える児童。
- 友達の考えから学び合ったり、よりよく問題解決できたりしたことを実感したりしながら、算数を楽しく学ぶ児童。
- 論理的にまた正確に問題を解決することを通して、これからの社会を思慮深く生きる児童。

理科における「探究理科」の構想

理科は、「自然に親しみ、理科の見方・考え方を働きかせ、見通しを持って観察・実験などを行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を育成する」ことを目指します。「探究理科」では、学習したことを他の事象に当てはめて考えたり、掘り下げて深めようとしたりしながら、さらに問題解決力の向上を図ります。

I 研究主題と関連させた「探究理科」の考え方

(1) 理科が考える「探究理科」とは

自然事象を学習対象とする理科では、児童の興味・関心が発展的に広がったり深まったりすることが少なくない。たとえば、メダカの誕生を学習した児童が「他の生物はどのように誕生するのだろう」と考えたり、植物の成長を学習した児童が実際の栽培活動に生かそうとしたりすることもある。

そこで、本校理科は、学習したことを他の事象に当てはめて考えたり、掘り下げて深めようとしたりしながら、「探究理科」として発展的に取り扱うことによって、さらに自然に対する興味・関心を高め、問題解決力の向上を目指すこととした。

(2) 探究理科における「考えを広げ、深める」とは

考え方を「広げる」とは	問題に対して「個人の考え方」を明確にもち、見通しを持って観察・実験を行うことである。根拠に基づいて自己の考え方を明確に持ち、それを確かめるためにはどのようにすればよいか計画を立て、適切に観察・実験を行い、その過程や結果を正しく記録する一連の活動である。
考え方を「深める」とは	観察や実験の結果から何が言えるかを話し合い、結論を導き出すことである。当初の自己の考え方の妥当性について観察や実験の結果から考え直したり、友だちの意見と比較して補充・深化させたりしながら結論を導き出し、自然の事物・現象に対する見方・考え方を深めていく過程を大切にしたい。

(3) 探究理科における目指す児童像

児童の実態	<ul style="list-style-type: none">○自然の事物・現象に対する興味・関心が高く、実験や観察などに積極的に取り組もうとする。○ICT 機器の取り扱いに習熟している児童が多く、積極的に活用して学習しようとする。▲自然現象に対する知識について、個人差が大きい。▲気が付いたことや不思議に思ったことなどから問題を作り出したり、観察・実験の結果から言えそうなことを考察し、結論付けたりする力が身に付いていない。▲表やグラフなどの資料を読み取り、どのようなことが言えるかを考えたり、その先がどのように変化するか予測したりする力が弱い。
-------	---



【目指す児童像】

○自ら問題を設定し、予想に基づいて計画的に観察・実験を行い、その結果から言えそうなことを考察し、結論付けることのできる児童

音楽科における「探究音楽」の構想

音楽科は、「音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培うことを目指しています。「探究音楽」では、①児童自ら問い合わせ持ち、考え、音や音楽について学び表現する探究や、②音や音楽的な感性と創造性を發揮して音楽を味わう学習を対象とした探究を行います。

I 研究主題と関連させた「探究音楽」の考え方

(1) 音楽科が考える「探究音楽」とは

- ①音楽に対する知識を得たり結び付けたり活用したりすることで、音や音楽について学び表現を探究（表現：歌唱・器楽）
- ②音や音楽的な感性と創造性を發揮して、音楽の美しさや、良さを味わう学習を対象とした探究（鑑賞）

(2) 探究音楽における「考えを広げ、深める」とは

考えを「広げる」とは	自らの感じたことや、考えを多様な視点から見直し、他者の表現などから新たな気付きを得ること。
考えを「深める」とは	自分の表現を発表などして、映像や録音で見直し、よりよい表現方法を探すこと。

(3) 探究 における目指す児童像

児童の実態	○歌唱については、良く響く美しい声で歌う児童が多い。 ○歌詞が英語の歌も正しい発音で歌うことができる。 ○鍵盤ハーモニカで「かえるのうた」など簡単なメロディを弾くことができる。 ○リズム遊びなど主体的・意欲的にとりくむ。 ▲グループ活動では活発に自分の意見をのべるが、全体の前での発表となると緊張でうまく表現できない児童が多い。
-------	--



【目指す児童像】

- 音や音楽に自ら進んで関わりたいえようとする児童。
- 音の違いや組み合わせに気づき、「なぜ?」「どうしたら?」と問い合わせもち、試したり比べたりしながら、自分なりの音の使い方や表現を工夫できる児童。
- 友達の音の工夫やアイデアに関心をもち自分と比べたり取り入れたりしながら、仲間と音を合わせて創作・表現することができる児童。

図画工作科における「探究図画工作」の構想

図画工作科は「形や色などの造形的な特徴やイメージなどと関わる全ての学習活動に共通に働く資質・能力を育成することを目指します。「探究図画工作」では、①発想や構想をする学習を対象とした探究、②創造的な技能を働かせる学習を対象とした探究、③作品のよさや美しさなどを感じ取り味わう学習を対象とした探究を行います。

I 研究主題と関連させた「探究図画工作」の考え方

(1) 図画工作科が考える「探究図画工作」とは

- ①知識を得たり結び付けたり活用したりすることで、発想や構想をする学習を対象とした探究
- ②材料や用具などの特性を生かし、意図に応じて表し方を工夫することで、創造的な技能を働かせる学習を対象とした探究
- ③作品を鑑賞し、作品のよさや美しさなどを感じ取り味わう学習を対象とした探究

(2) 探究図画工作における「考えを広げ、深める」とは

考えを「広げる」とは	ひとつのアイデアにとらわれず、様々な情報や他者との学び合いから新しい発見をしたり、複数の選択肢を検討したりして、多様な視点や、可能性を取り入れ、発想の幅を広げること。
考えを「深める」とは	<ul style="list-style-type: none">・広げたアイデアの中から、特に探究したいものを選び、表現をより具体的に豊かにしていくこと。・漠然としたイメージをより明確な形や意図をもったものへとしていくこと。
考えを「広め深める」とは	<ul style="list-style-type: none">・スパイラルのように、自分の考えを広げることで多くの可能性を見付けたり、自分の問いを深めることでより独自の発想やそれを表現するための創意工夫へとつなげたりするなど、終わりのない探究を続けていること。

(3) 探究図画工作における目指す児童像

児童の実態	【図画工作の授業について】 <ul style="list-style-type: none">○やってみたい、描いてみたいと、図工を楽しみに待つ児童が多い。○色の付け方を工夫したり、形の作り方を積極的に考えたりする児童が多い。▲決められた課題には取り組むことができても、自分で想像しながら作り上げることに難しさを感じている児童もいる。▲イメージを自分が思い描く形や色に表現することが難しく、途中で投げ出してしまう児童もいる。▲自分の作品に満足してしまって、更に発想や構想を膨らませたり、新たに創造的な技能を高めたりするまでには至っていない。
	▲次の作品や生活の場におけるすべての学習に活用する姿があまり見られない。



【目指す児童像】 <ul style="list-style-type: none">○感性や創造力を働かせたり、他者と対話し様々な考えに触れたりすることを通して、形や色などの造形的な視点で自分のイメージを持ちながら意味や価値をつくりだす児童。○自分の表したいことを考えて見付けることができる児童。○自分の表現の意図に応じて、創意工夫して、創造的な技能を働かせることができる児童。
--

体育科における「探究体育」の構想

体育科は、体育や保健の見方・考え方を働かせ、自己やの動きを比較することなどを通して、共通点や相違点を見付けており、伝えたり、よりよいものを目指して試したりして運動においての知識や技能を習得するコツを見つけ、考える児童を育成したいと考えます。「探究体育」では、さらに、思考し、他者と対話しながらよりよいものを求める姿を目指します。

I 研究主題と関連された「探究体育」の考え方

(1)体育科が考える「探究体育」とは

体育科における探究の対象と探究学習は、以下の通りである。

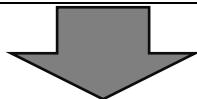
運動技能を通した自己の課題解決学習を対象とした探究	運動の知識や技能について、それらの価値や特性から自己の課題を見付け、課題の解決方法を思考し、他者と対話しながらよりよいものを求める探究学習
---------------------------	---

(2)探究体育における「考えを広げ、深める」とは

考えを「広げる」とは	運動に対する知識・技能において、自己や他者のつまずきや意識しなくてはいけない点での自分自身の考えを持ったうえで、他者と意見を共有し、自分にはなかった新しい視点を持つ。また、自分の考えと他者の考えを合わせた新しい考えを構築し、運動を行う。
考えを「深める」とは	考えを広げた活動をもとに、自身の考えや他者との考えを合わせることで、体育の単元全体を総括して必要な技能や視点を改めて持ち、運動を行う。

(3)探究体育における目指す児童像

児童の実態	【体育の授業について】
	<ul style="list-style-type: none">○全体的に体育を楽しいと思う児童が多い○「楽しくて、跳ぶところが好き」「跳ぶことでほめられた」(跳び箱のアンケートより)といった回答から、跳ぶことや運動に対しての恐怖感がなく、跳ぶことを楽しいと感じている児童が多い。▲経験がない運動技能を実践することに怖さを感じる児童がいる。▲休み時間の傾向から体育や運動自体に苦手意識を持っている児童も中にはいる。



【目指す児童像】
<ul style="list-style-type: none">○今の自身の技能に対する現状を把握し、技能向上のためにどうすればよいかを考える児童
<ul style="list-style-type: none">○他者の考えを自己の考えに生かすことや、自身の課題解決によって達成感を持ちながら、体を動かすことの楽しさを学ぶ児童
<ul style="list-style-type: none">○達成する上で意識しなくてはいけない点やコツを自らが学ぶだけでなく、他者から情報を獲得することや他者に情報を発信することを通して、協調性や社会性を身に付けようとする児童

英語科の「探究英語」の構想

英語科は、「英語の特徴や文法、文化的背景に対する理解を深めるとともに、4技能を確実に身に付けながら、相手や目的・場面・状況等に応じて主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育成することを目指しています。「探究英語」では、語彙や構文を理解し、繰り返しの練習で身に付けた知識・技能を使って、どうすれば自分の伝えたいことを自分の言葉で効果的に表現できるかを探究して行きます。

I 研究主題と関連させた「探究英語」の考え方

(1) 英語科が考える「探究英語」とは

英語を通して、自分や他者・世界について問い合わせを持ち、調べたり、他者と意見交換したりしながら考えを深め、身に付けたコミュニケーションの技術と育んだ思考力を使って、自分の伝えたいことを自分の言葉で効果的に表現する学習。

(2) 探究英語における「考えを広げ、深める」とは

【考えを広げるとは】

自ら立てた問い合わせに対して、様々な他者の意見を聞くことで多様な視点からの発想や情報を得て、思考の幅を広げること。

(例) ・ある動物の説明をする英文がなぜ相手に伝わらなかつたかの理由を指摘しあう活動。

【考えを深めるとは】

得られた情報や意見について、ただ「こうである」という事実だけでなく、その理由や背景などを探し、より深い本質的な理解を持ち、またそれと結びつけることによって、より説得力のある発信に繋げること。

(例) ・外国人観光客に別府を案内する際、相手が必要とする情報は何か、それは何故かを考える活動。

(3) 探究英語における目指す児童像

児童の実態	【R6 年度 英検 ESG 結果および龍谷大学との共同研究分析結果より】
	○ 全体的に Listening の能力が高く、3年生から、単語を基に文を理解できている。
	○ 「英語は大切な教科である。」との認識が高く、異文化や外国語を楽しんで学んでいる児童が多い。
	▲ Listening と Reading についての能力は全体的に高いが、Writing については個人差が大きい。
	▲ 英語での Writing の大切さは大半の児童が理解しているが、楽しいと感じている児童は少ない。
	▲ 「英語で伝え」ようとする時、「難しい言葉や長い文を使って」表現しようとする傾向が見受けられる。
	▲ 従って、発表の際に英語を「話す」のではなく「読む」だけになってしまうことが多い。



【目指す児童像】

- 広い見解を持ち、他者の意見の良いところを積極的に取り入れて、自分の英語表現を向上させることができる児童。
- 意見を発表する際、事実だけでなく理由も付け加えたり、相手の文化的背景を考えて説明を調整したりするなど、相手を意識した発信ができる児童。
- 自分の言いたいことを自分の言葉で表現しようと工夫することができる児童。

生活科における「探究生活」の構想

身の回りの生活や自然、社会について主体的に理解を深め、問題解決することを通して、児童が興味や関心、疑問を持ったテーマについてより深く調べたり、考えたり、実際に行動したりしようとする。

※探究科へ移行した内容についても、内容(5)、(7)と関連するとともに、低学年の特性を踏まえて、本構想を転用する。

(1) 生活科が考える「探究生活」とは

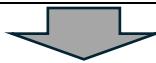
①身近な人々を対象とした 探究	家族や学校の先生や上級生、地域の人など、日常的に関わる人々の思いや工夫、働きに関心を持ち、実際に関わったり話を聞いたりする中で、その役割や大切さに気付き、感謝の気持ちや自分にできることを考える。
②社会および自然を対象とした 探究	地域の施設や自然、行事や産業など、身の回りの社会的・自然的環境に目を向け、「なぜこうなっているのだろう」「どうしたらもっとよくなるのだろう」と問い合わせを持った調べたり、試したりする中で、社会や自然との関わり方を考える。
③自分自身を対象とした 探究	自分の成長や生活の中での気付き、不安や疑問などに向き合い、「どうしてそう思うのか」「どうすればもっとよくできるか」を考えながら、これから的生活や自分の在り方を見つめる。

(2) 探究生活における「考えを広げ、深める」とは

考えを「広げる」とは	児童が自らの関心や問い合わせに基づいて調べたり、話し合ったり、試したりする中で、新たな視点や疑問が生まれることによって、考えを広げる。
考えを「深める」とは	得た情報や経験をもとに自分の考えを比較・整理し、自分なりの見方や解釈をもつことによって考えが深まる。

(3) 探究生活における目指す児童像

児童の実態	<p>【一学期の見とりから】</p> <ul style="list-style-type: none">○身の回りの出来事に対して興味をもつ子が多い。○様々な活動を楽しんで取り組む。▲問い合わせをもつことや自分の考えを言語化することに慣れていない。▲調べ活動や話し合いの中で、自分の考えを深めたり、他者と比較したりする場面が少ない。
-------	--



<p>【目指す児童像】</p> <p>身近な人、もの、ことに関心を持ったり疑問に思ったりしたことを調べて自分なりに理解する。</p> <p>関心を持ったり疑問に思ったりしたことから問い合わせ立て、比較したり、変化を捉えたり、気付きを深めたりする。</p> <p>他者の考えに関心をもって聞き、交流したり、調整したり、自分の考えをよりよくしたりしようとする。</p>
--

令和7年度 探究科の構想

探究科では、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現という探究的な学習のプロセスを通して、課題解決に必要な情報を扱い概念を形成する力、問い合わせを深め情報を意味付け、新しい価値を創造する力、他者と協働しよりよい社会を目指す態度を育てていきます。

I 研究主題と関連させた「探究」の考え方

(1) 探究科が考える「探究」とは

A 領域「コミュニケーション探究」	様々なシチュエーション対応やストーリーについて、英語や国語その他の言語表現や非言語表現、それによってやりとりされる情報や ICT に関する見方・考え方を駆使して探究し、プレゼンテーションやディスカッションなどの言語活動を通して場面に応じた自己のコミュニケーション力等を高める。
B 領域「グローカル探究」	身近な人、もの、ことに関わって、地域のことを調べたり、国際的な視野と SDGs の視点で課題を見出したりする活動を通して、疑問を解決しながら、よりよく課題を達成する方法を考え実践するとともに、経験や収集した時間的・空間的な情報を整理しながら創造的に解決方法を探る。
C 領域「マイ・キャリア探究」	自己の興味・関心、好奇心に沿って課題を立てたり、現在や未来に対する夢や願いの実現を目指して課題を立てたりし、集団や社会への役立ちや改善計画に基づいて学校、家庭及び地域の中で実践したり、体験・観察・取材・調査等で情報収集したりしながら、時間的・空間的視点や理数的な視点によって整理・分析し、論文や説明資料にまとめる。

(2) 探究科における「考えを広げ・深める」とは

- ◎考えを広げる…これまでの学習や経験、各教科での「探究過程」で培った探究力をもとに、色々な考えを組み合わせたり比べたりなどして新たな視点や疑問が生まれること。
- ◎考えを深める…自分なりに広げた考えを、友だちの考えと比べ、共通点や相違点を見付けたり、学校外の人・もの・ことから得た情報や経験をもとに視点を新たに持ったりしながら、自分の考えをより良いものに高度化・進化・洗練させていくこと。

(3) 探究科における目指す児童像

児童の実態	【一学期の見とりから】
	<ul style="list-style-type: none">○探究することに対して楽しみに思っている児童が多い。○タイピングの技能や検索の仕方など調べ学習の基礎的な力は身に付いている。▲調べた事に対して、複数の情報を得て多面的に見たり正確な情報かどうか確かめたりしようとはしない。▲話し合いの中で、他者と考えを比較したり練り合ったりして深めようとする場面が少ない。▲探究した成果を、論理的に論文にまとめたり他者に分かりやすく伝えたりすることが苦手。



【目指す児童像】

- ・探究的な課題に対して、様々な視点を持って調べたり確かめたりして知識量および調べ学習の技能を高める。
- ・収集した情報をシンキングツール等を用い、整理分析する中で新たな視点を取り入れながら考えを深めていくとする。
- ・課題に対して解決を目指して協働して取り組み、市民感覚をもち、より良い社会を創っていくとする態度が見られる。
- ・探究した成果を、論理的に論文やプレゼンテーション等にまとめ、他者に表現できる。

<終わりに>学校教育全体で「探究力」を育成する立場から、本年度整理できていない家庭科、特別の教科道徳科及び特別活動の構想も、整えて参ります。また、探究力によるめた情報活用能力等の具体についても、各領域や各学年段階で整理して参ります。